

学園

平成 24 年 7 月 1 日 発行

財団法人

中国四国酪農大 学校

電話 (0867) 66 — 3651

FAX (0867) 66 — 3652

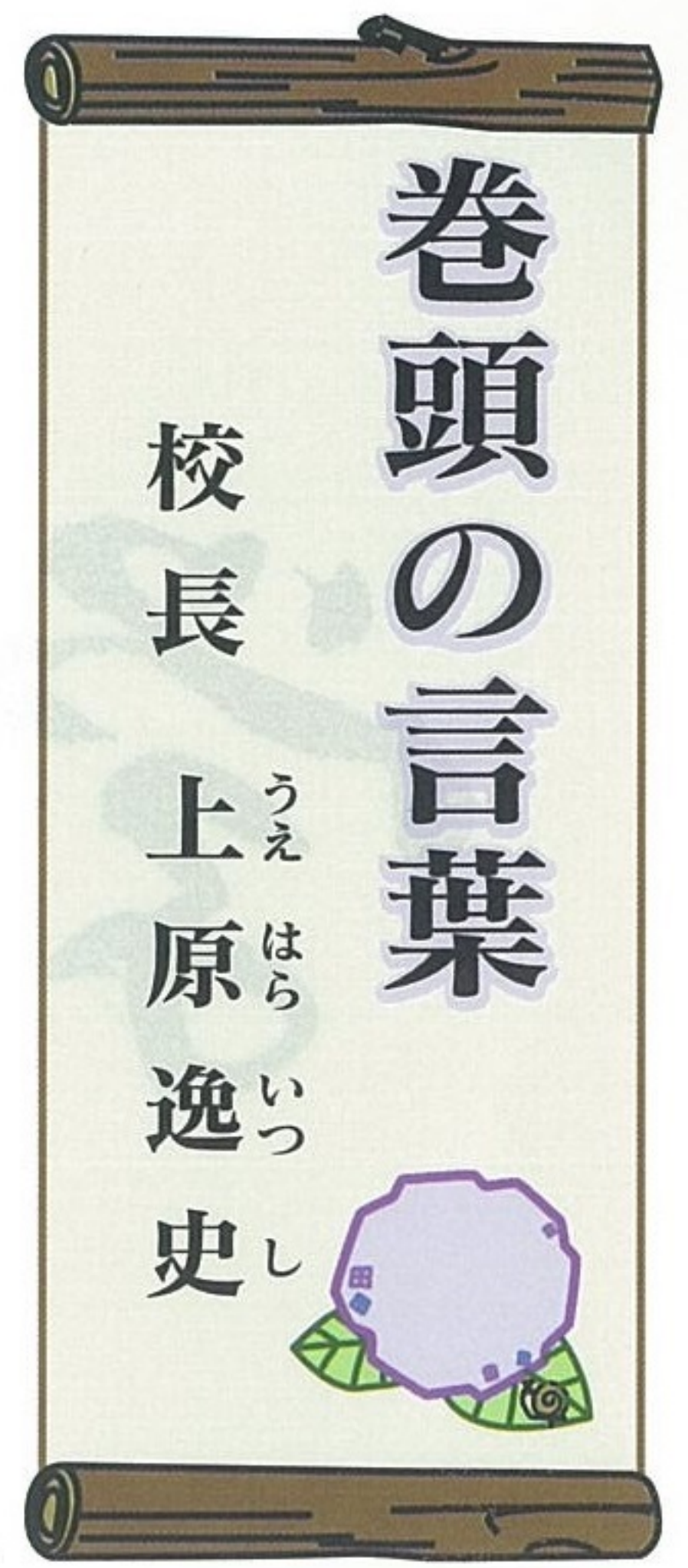
E-mail jerko@mx4.et.tiki.ne.jp

<http://ww4.et.tiki.ne.jp/~jerko/>

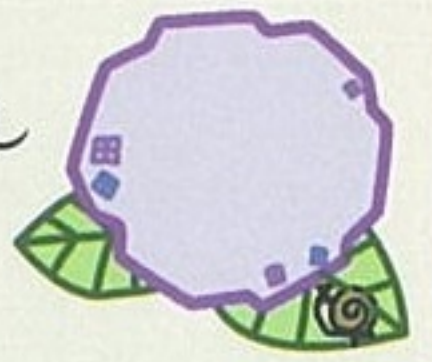
だより



第 48 期生 トムソーヤ牧場にて



校長 上原逸史



さらには4年生大学への編入学が可能となる専修学校へ移行させるなど、時代のニーズに即応した魅力ある学校づくりに努めてきました。

校運営基盤の強化が図られたところですが。

「中国四国酪農大学校中期運営計画」の着実な実行を通じて魅力ある学校づくりを進めつつ、実践教育に

定され、岡山からの外部団

体への補助金の全廃が掲げ

られました。これに対応す

るために本校は、これまで

以上に効果的かつ効率的な

学校運営が求められました。

そこで、本校の卒業生の

皆さんへのアンケートや高

等学校・農業団体・関係団

体の意見を聞きながら「中

国四国酪農大学校中期運営

計画」を策定しました。

この中で、6次産業化等

に関する科目などを充実さ

せた授業カリキュラムへの

再編、安心して勉学を受け

るための奨学金制度の導入、

また、管理運営面では、

組織体制の見直しによる人

件費の大幅な削減をはじめ、

学校管理コストや牧場運営

費の徹底的な縮減、学生の

確保、授業料等の値上げや

社会人短期研修コースの創

設など、新たな財源確保を

行い自主的な運営への転換

を図っていくこととしてい

ます。さらに国が新設した

就農を前提とした研修事業

に対する補助制度の導入、

構成県からの講師の派遣に

よる人的支援、学生募集活

動の強化に対する岡山県か

らの支援をいただくなど学

今冬は昨年よりも雪の多かった蒜山高原ですが、すがすがしい夏を迎えています。

今年度も新入生22名が入学し、3ヶ月がたち寮での集団生活にも慣れ講義・実習の毎日を頑張っています。

さて、平成21年度発行の「学園だより」でふれましたが、岡山県の財政事情が厳しいことから「岡山県行財政構造改革大綱2008」が策

行っていく所存でありますので、これからも皆様方のご理解とご支援をよろしくお願ひします。





卒業生
酪大を卒業して

第二十四期生
和田 慎 吾

中国四国酪農大を卒業して20年余り、あつという間でした。

現在、経営者として酪農を営んでいますが、酪大で学んだ事が大きく役立っています。特に農家実習で経験した事や知識・技術は言うまでもなく、実習農家との繋がりは現在でも大きな財産です。

私は卒業後、自分自身の酪農スタイルを追求しました。県内にとどまらず、各地の牧場を見学したり、ヨーロッパ視察旅行に参加し、大規模な企業的経営・放牧酪農を学びました。その中でどの形態を自分の経営に取り入れるのがベストなのか模索しました。

平成13年、父親から経営移譲を受け、私の酪農改革をスタートさせました。フリーストール牛舎新築を目標に1つ1つ技術を構築していきましました。「土づくり草づくり牛づくり」を原点に自給飼料をローコストにして安定良質の粗飼料を年間を通して確保する事から始めました。

平成15年からは、家族経営の限界を感じ従業員雇用を行い、16年にはパーチカルミキサーを購入してTMR給与を開始し、牛の調子を見ながら試行錯誤を繰り返しました。

満足するエサが実感できてきた17年に牛舎設計に着手し、翌年の18年9月に66ベツトフリーストール、乾乳・初任牛フリーバーン、アブレストパーラー牛舎を完成させました。

現在は育成施設を増築し、雇用を2名として労働力3名、経産牛60頭、育成牛45頭、飼料畑9.5ha(90%自給粗飼料)で循環型酪農を営んでいます。

成績はM11,500kg F3.7% SNF8.7%体細胞25万 分娩間隔410日です。計画からスムーズにここまで出来た事は、とにかく数多くの牧場経営を視察し、焦らず1づつ積み上げてきたからだと思えます。

卒業から現在、この期間に酪農情勢は大きく変化しました。穀物相場は高いまま、乾牧草の高騰、資財の値上がり、環境問題、食の安全意識の向上、家畜伝染予防法の改定からの衛生・記帳の徹底等々、経営者に課せられる責任は重く大変厳しい時代です。そんな中での酪農・廃業が止まらず同業者がどんどん少なくなり淋しく心痛めます。

これからの時代、スケールメリットによる酪農経営でも厳しいと思います。その土地・地域に根ざしたバランスの良い経営を私はしていきたいと思えます。酪大には農家の後継者を育

てるだけでなく、将来、酪農に従事するための学生を育成したい。我々の同士の増やしてもらいたい。

在校生
二年生になつて

第四十七期生
小川 希 望

動物園の飼育員になろうと思進学した高校で、初めて牛に触れ、牛の暖かさを知り、搾乳をしてみたいという単純な動機で畜産を学び始めました。牛について知っていくにつれ、「もっと牛について学びたい」という気持ちが大きくなっていきましました。高校二年生の時、担任の先生に相談すると「酪農を学ぶなら酪農大の学校に進学するのがいい」と言われ、中国四国酪農大への進学を決めました。

中国四国酪農大に入学し、思いっきり酪農を学べる期待と、寮生活はきちんとできるのか、友達はどこまでいるのか、作業をきちんとこなせるだろうかという不安でいっぱいでした。入学してから初めての実習の日は、不安でいっぱいでしたが先輩方が優しく、丁寧に教えてくれたおかげで無事終えることができました。毎週水曜日の作業交代では、一週間自分がやって来た仕事を、分かりやすく次の人に教えるにはどうしたらいいのか、引き継ぎをするのが大変でした。作業が思うようにできず苦戦しているとき、逆に困っている人がいる時は「こうしたらいいんじゃないか」とアドバイスを合

つたり切れたと思います。二年生になり、四月から研修生として全国の牧場へ修行の旅が始まりました。二ヶ月という長いようで、短い日々でした。四、五月にお世話になった牧場では、毎日朝の四時から十時まで約六五〇頭の搾乳から一日が始まります。はじめの頃は、いつ終わるのか分からず、搾っても搾っても嫌になりが見えない搾乳が、しかし、日を重ねることによって、どの群を搾っているのか、あと何頭残っているのか、乳房炎や注意牛はどの牛なのか分かるようになってきました。また、牧場職員の方、海外実習生の方達と仲良くできたことで、充実した研修になったと思えます。

校内研修のために学校に帰ってきた時、四十八期生の先輩たちを見て、教える立場になったんだと思えました。二ヶ月ぶりの牧場は少し雰囲気が変わっていて、少し戸惑いがあったが作業をしている一年生を見て、もっと効率良くできるのではないかと考えることがあります。そういうことを一つずつ教えていけたらと思えます。

私は今、繁殖に興味をもっています。自分で人工授精をして、子牛が生まれてくるまでを見たいからです。人工授精の講習会で一回だけしか授精器を通すことができず、悔しい思いをしたのを覚えてい

ます。四、五月の研修先で、繁殖を管

理しておられる方が「そんなに繁殖に興味があるんだったら、人工授精してみない」と言われ、三日間ほど繁殖のお手伝いをさせてもらえらなりました。一日目は、ほとんどが見学で終わりましたが、獣医さんにエコーを見せてもらい子宮内の胎児の様子を見ることができました。一日目、三日目は直腸検査と人工授精をさせてもらいました。二日間、四頭の牛に人工授精をすることができ、今は受胎待ちです。これから機会があればどんどんチャレンジしていきたいと思っています。

酪農大に入学して良かった事は、高校では学ばなかった専門的なこと、大型特殊、牽引免許取得に向けての練習や削蹄演習、毛刈り講習にミニ共進会と色々な経験をしました。中でも入学して良かったと思えることは、同じ夢を持つ仲間に出会えたことです。酪農をやっている人、非農家の人、農業高校出身の人、そうでない人、同じ酪農人をしていくけれど色々な考え方があって、色々な思いがあることを知ることができました。研修が終わった時に研修で学んできたことなどを語り合いたいです。

卒業後は、地元である島根県に帰って牧場従業員として働きたいと思っています。島根の酪農を盛り上げていけるような人になるために、残りの研修も頑張りたいと思います。

す。

第一牧場だより



初夏の候、卒業生の皆様

に回復してきています。

にはお元気でご活躍のこと
とお喜び申し上げます。

昨年度は従来のバンカー
サイロに加え、細断型ロー

第一牧場は昨年に引き続き、
関場長、樋口技師、山田技師の
三人で担当しております。

ルベーターによるコーンサイ
イレージの調整を行いました。
ロール形状にすることで
保存性が良くなり、カビ

今年の冬も昨年と同様大雪となり、
四月に入っても積雪が観測されること
がしばしばでした。そのため、
春先における牧草の生育が著しく悪く、
飼料畑の一部のイタリアンの収穫を
諦め、トウモロコシを播種
しました。最近では気温が
上がり、牧草の生育も徐々

等による廃棄が減少したよ
うに感じます。今後の課題
としてはコーンサイレージ
を通年給与できるようにト
ウモロコシの収量を増やし
ていきたいと思っています。
今年度は環境美化に力を
入れており、牧場内に花壇
を設置しました。芽が生え
たばかりで花の見頃までに

はまだまだ時間がかかりそ
うですが、とても楽しみで
す。

また、牛舎改善にも取り
組んでおり、分娩牛舎の改
築を計画しています。この
改築により作業効率の向
上、分娩事故の減少を目指
しています。

昨秋の蒜山地区共進会で
は、本校の出品牛がグラン
ドチャンピオンの栄誉に輝
きました。今後も蒜山地区
改良同志会や関係者の皆様
方のご指導を仰ぎながら、
さらなる牛群改良に励んで
いきたいと思っています。

最後になりましたが、近
くにお寄りの際は本校に足
を運んで頂ければ幸いです。



蒜山地区共進会

第2牧場だより



職員移動無し

昨年に引き続き芦田場長以下池田技師、村田技師、西村技師の4人体制(週1で+広金副校長)で日々の作業を行っています。今年は学生の実習に加えて「おからく」と「全酪連」に新規採用された職員の外部研修が行われ、場内はにぎやかにになりました。病気・怪我・事故に気をつけて1年を過ごしたいものです。

乳量・乳質の

さらなる改善を達成

今年度は85頭程度搾っていることもあり1700

1800Kgの生乳を出荷できるようになりました。

昨年パーラーの改修を行う際に導入したI.Q.クラスターや飼養管理の向上による効果で今のところ体細胞数は1桁台をキープ。地域でもトップクラスの牛乳を出荷し続けています。

1番草収穫も

イタリアン残念

牧草は晩秋が暖かくイタリアンが伸びたところで雪にあたったため枯れてしまい、収穫ができず、加えて春からの気温が不足したため永年牧草の生育が思わし

くありませんでしたが梅雨の晴れ間を縫うようにして、チモシーなどのロールを600個ほど収穫しました。

ジュニア

グランドチャンピオン誕生

4月28日に蒜山で行われたジャージースプリングショーで第2牧場から出品したカヤベマウントバールマエストロ ハイジ号がジュニアグランドチャンピオンになりました。分娩後は乳量でもがんばって欲しいと思います。



ジュニア グランド チャンピオン

職員紹介

校長 上原逸史
 副校長 広金弘史
 (総務課長兼務)

総務課
 係長 有富英美

教務課
 教務課長 関 哲生
 技師 長綱則之
 技師 高見奈々
 臨時職員 法花千恵美
 調理員 谷口育子

第一牧場
 (第二牧場長兼務)

技師 関 哲生
 山田祐季
 臨時職員 樋口照夫

第二牧場

第二牧場長 芦田草太
 技師 池田良弘
 技師 西村祐枝
 技師 村田崇浩

いろいろな行事大略



ミルク一点検



作業風景



飼料作物演習



ミルク一点検



作業風景



スポーツ大会

平成25年度

学生募集

動物とのふれあい、
仲間との楽しい時間。
大自然の中、一生に残る
2年間で過ごしてみませんか？

■推薦募集

受付期間:平成24年9月3日～9月28日
試験日:平成24年10月11日(本校会場)
10月12日(岡山会場)

■第1次募集

受付期間:平成24年11月5日～11月30日
試験日:平成24年12月14日

■第2次募集

受付期間:平成25年1月15日～2月28日
試験日:平成25年3月8日

2年間で酪農経営力を
身につけます！

酪農に必要な資格が
取得できます！

奨学金・給付金制度も
あります！

SEARCH **中国四国酪農大学校** GO!

オープンキャンパス

第1回 平成24年7月26～27日

第2回 平成24年8月30～31日

(財)中国四国酪農大学校 TEL.0867-66-3651(代)

〒717-0604 岡山県真庭市蒜山西茅部632 FAX.0867-66-3652



実習でチーズやアイスクリーム、
ソーセージなんかも食べられ
ちがいますよ(笑)